



京都部会(第2回)

日時: 2009年5月29日(金)19:00~21:00

場所: 同志社大学 光塩館

【内容要旨】

- (1) 第2回の京都部会は15名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、6~8月までに予定しているワークショップ、先生のための「夏休み経済教室」、教材作成などの事業計画についての報告があった。
- (2) 引き続き、中藤 強氏(嵯峨野高等学校)が「政治・経済」の教科書に記載されている「外国為替市場」について報告された。まず、4社の教科書に記載された部分のコピーを配布されながら、円高、円安について簡単な事例を示しているものがほとんどで、「何故、円高、円安になるのか」「何故、円高や円安になれば貿易に影響が出るのか」などについては、ごく簡単にしか説明されていないと指摘された。そのような状況の中で、補助教材として独自に作成されたプリントを用いた指導について報告された。
続いて、篠原氏からは、教科書の単元構成では外国為替は比較生産費説の後に記載されているため、全体の脈絡が失われているとの批判があった。すなわち、国際経済のメッセージが伝わらず、為替とか円高や円安などについての単なる知識の切り売りに終わってしまっている。ただ、最近のTVや新聞では、円高や円安のニュースを日常的に見聞きするので、身近な例を上げて円高や円安の意味を理解させることの重要性についての異論はなかった。
- (3) 最後に、「入試問題検討プロジェクトチーム」の発足に当たって、メンバーに加わっていただきたい旨の要請が篠原氏から出された。

(文責:西村理)